

## 保育士育成のための学外コンサート活動の試み④

### — 3回の実践による学生の変化—

田中 雅章    桂山 たかみ    平松 喜代江

#### 要旨

本研究は保育士養成校で開設された専門ゼミナールの地域連携プログラムにおける実践活動において、地域の対象者別に配慮したコンサート活動の成果を検証することを目的とした。この取り組みは明確な教育的意図を持ち、理想の保育になるために必要な技能と知識を学ぶ活動である。このコンサート活動の実践によって参加した学生の楽器演奏の実践力および保育者として資質の向上を目指した。

実践活動は、三重県四日市市にあるB病院在宅医療福祉部通所リハビリテーションセンター、四日市市にあるCデイサービスセンター、三重郡菰野町にあるD幼保園の3か所で行われた。調査対象者は、それぞれの施設の勤務者である。調査方法は30分のコンサート後にアンケート用紙を責任者に委託し、任意にて回答を得た。

それぞれの利用者がコンサートを楽しめるようにとコンサート時間、選曲、曲順、環境設定に配慮したプログラムの成果がこの調査結果として表れている。本稿では学生が主体となり、コンサートの企画・運営を行ってどの様に成長したのかを評価する。

**キーワード** コンサート、演奏活動、施設、未就学児、地域連携

#### 1. はじめに

保育所や幼稚園などの保育現場では、保育者が子ども達の表現力を引き出すために音楽を使って活動を展開している。保育者は、音を感じる喜びや楽しさを子ども達と共有できる力と豊かな心が必要不可欠である。豊かな感性、子ども達に音楽のすばらしさを伝え、演奏活動を援助するための基礎知識および目に見えて上達を感じられる演奏技術が不可欠である。子ども達の音楽活動として代表的なものに、うたう・きく・うつ・うごくがある。保育者が、これらの活動を引き出すために、子ども達に楽器を習得させる場面が多くみられる。

その一例として生活発表会がある。しかし、生活発表会の指導が現場ですぐにできるものではない。そのため指導力や実践力を身に着けるに、さまざまな手法が提案されている。そのひとつに1960年代に原型が考案されたのが、PDCAサイクルがある。これは工業製品の品質を向上させる方法として経営工学のマネジメント手法である。これを教育現場で実践する教育方法として取り入れものである。PDCAサイクルは、Plan（計画）、Do（実施・実行）、Check（点検・評価）、Act（処置・改善）の4サイクルで成り立っている。このサイクルを実行することによってコンサートの内容改善や学生の成長が期待できる。

本学の専門ゼミナールの地域連携プログラムでは学生の将来を考え、保育の専門家として明確な教育的意図をもって保育するために必要な技能と知識を学ぶ取り組みを行っている。学外コンサートを3回行った。本稿ではこのような取り組みを行う学生の成果を評価したいと考え、コンサート参加者にアンケート調査を実施した。今後のコンサート活動に生かせるように参加者から得られたアンケート結果を分析し、さらにこの分析結果を考察した。

## 2. 目的

本研究は、専門ゼミナール地域連携プログラムにおける実践活動を通して、地域の対象者別に適したコンサート活動の成果を検証することを目的とする。さらに、コンサート活動の実践によって、参加学生の実践力の向上を目指す。

## 3. 方法

### (1) 実践学生の属性

A短期大学幼児保育学科、2年次専門ゼミナール地域連携プログラムを受講の学生

①23名（男性3名、女性20名）

②20名（男性3名、女性17名）

③17名（男性3名、女性14名）

### (2) 実践活動の時期

①2019年7月3日、11時から30分間

②2019年11月13日、10時30分から30分間

③2019年11月27日、11時から30分間

### (3) 実践場所

①三重県四日市市、B病院在宅医療福祉部通所リハビリテーションセンター

②三重県四日市市、Cデイサービスセンター

③三重県三重郡菰野町、D幼保園

### (4) 調査対象者

①B病院在宅医療福祉部通所リハビリテーションセンターの保護者と職員

②Cデイサービスセンターの職員

③D幼保園の保育者

### (5) 実践内容（コンサート）

表1 コンサート内容 B病院

発表者	発表内容	使用楽器
有志	愛の挨拶 <sup>1</sup>	トランペット、クラリネット、マリンバ、ピアノ
Eゼミ	ふるさと 365歩のマーチ	トーンチャイム マリンバ、ピアノ、うた
Fゼミ	マルマルモリモリ	なし
Gゼミ	さかながはねた 手をたたきましょう	ピアノ、うた タンバリン、鈴、うた

1 愛の挨拶 作品12 エドワード・エルガー

	手のひらを太陽に	ピアノ、タンバリン、鈴、うた
--	----------	----------------

B病院リハビリテーションセンターの実践内容を表1に示す。有志による演奏「愛の挨拶」<sup>1</sup>1曲を実施した。Eゼミ発表による2曲「ふるさと」「365歩のマーチ」の演奏を実施した。Fゼミ発表によるダンス披露「マルマルモリモリ」を実施した。Gゼミ発表による3曲「さかながはねた」「手をたたきましょう」「手のひらを太陽に」の手遊びを実施した。また、参加者に楽器や手作り楽器を配り、一緒に参加してもらう工夫を行った。

表2 コンサート内容 Cデイサービス

発表者	発表内容	使用楽器
有志	愛の挨拶 <sup>1</sup>	マリンバ、ピアノ、クラリネット
Eゼミ	道化師のギャロップ <sup>2</sup>	マリンバ、ピアノ、鉄琴、木琴
Fゼミ	情熱大陸 <sup>3</sup>	マリンバ、ピアノ、鉄琴、シンバル
Gゼミ	天国と地獄 <sup>4</sup>	マリンバ、ピアノ、鉄琴、木琴
全員	日本の曲メドレー	歌詞カード紙芝居
	①赤とんぼ	マリンバ、ピアノ、うた
	②どんぐりころころ	マリンバ、ピアノ、うた、ダンス
	③虫の声	マリンバ、ピアノ、うた、トライアングル、鈴、ギロ
Fゼミ	ふるさと	マリンバ、ミュージックベル
	365歩のマーチ	マリンバ、鈴、うた
全員	パプリカ	マリンバ、ピアノ、カホン、うた、ダンス
全員	サザエさん一家	マリンバ、クラリネット、鍋、お玉杓子、うた

Cデイサービスセンターの実践内容を表2に示す。有志による演奏「愛の挨拶」<sup>1</sup>を1曲実施した。Eゼミ発表による「道化師のギャロップ」<sup>2</sup>の演奏を実施した。Fゼミ発表による「情熱大陸」<sup>3</sup>の演奏を実施した。Gゼミ発表による「天国と地獄」<sup>4</sup>の演奏を実施した。その後、全学生による日本の曲メドレーを演奏し、歌詞カード紙芝居を用いて一緒に歌った。Fゼミによる「365歩のマーチ」「ふるさと」の演奏を実施した。最後に、全学生による「パプリカ」の演奏と歌、ダンスを実施した。アンコールとして、全学生によるサザエさんエンディング曲「サザエさん一家」の演奏と歌の披露をした。

表3 コンサート内容 D幼稚園

発表者	発表内容	使用楽器
有志	愛の挨拶 <sup>1</sup>	トランペット、クラリネット、マリンバ、ピアノ
Eゼミ	道化師のギャロップ <sup>2</sup>	マリンバ、ピアノ、鉄琴、木琴
Fゼミ	情熱大陸 <sup>3</sup>	マリンバ、ピアノ、鉄琴、シンバル
Gゼミ	天国と地獄 <sup>4</sup>	マリンバ、ピアノ、鉄琴、木琴
全員	日本の曲メドレー	歌詞カード紙芝居
	①赤とんぼ	ピアノ、うた
	②どんぐりころころ	ピアノ、うた、ダンス
	③虫の声	ピアノ、うた、トライアングル、鈴、ギロ
	④たき火	ピアノ、うた

2 組曲「道化師」より作品26 第2曲「ギャロップ(道化師のギャロップ)」ドミトリー・カバレフスキー

3 情熱大陸 葉加瀬太郎

4 喜歌劇「天国と地獄」より序曲 ジャック・オフエンバック

全員	体験コーナー（かえるの歌） 手遊び（アブラハムの子）	体験者は誕生月の年長児 体験コーナーに参加しない子ども達
全員	パプリカ	マリンバ、ピアノ、カホン、うた、ダンス
全員	サザエさん一家	マリンバ、クラリネット、鍋、お玉杓子、うた

D幼保園の実践内容を表3に示す。有志によるクラシック演奏「愛の挨拶」<sup>1</sup>を1曲実施した。Eゼミ発表による「道化師のギャロップ」<sup>2</sup>の演奏を実施した。Fゼミ発表による「情熱大陸」<sup>3</sup>の演奏を実施した。Gゼミ発表による「天国と地獄」<sup>4</sup>の演奏を実施した。

次は日本の曲紹介で歌詞カード紙芝居とスクリーンの拡大表示とを見せながら歌詞を読み上げた。その後、歌詞カード紙芝居とスクリーンの拡大表示とを見せながら日本の曲メドレーを演奏し子ども達と一緒に歌った。

D幼保園では、誕生月の年長児に体験コーナーとしてマリンバでカエルの歌の演奏体験を行った。体験コーナーで練習する間、参加しない子ども達は手遊びを行い飽きさせない配慮を行った。その後、体験コーナーの子ども達がカエルの歌を披露した。

最後は、全学生による「パプリカ」の演奏と歌、ダンスを行った。子ども達全員が一体となってダンスに参加した。アンコールとして、全学生によるサザエさんの番組エンディング曲「サザエさん一家」の演奏と歌を披露した。

#### （6）調査手順

学生によるコンサート（表1～3）を30分間行った。B病院ではコンサート終了後にアンケート用紙を配り、その場で回収した。Cデイサービスの職員とD幼保園の保育者はアンケート用紙を園の責任者に委託し、任意にて回答を得ることにした。

調査用紙は無記名の自己記述式とし、設問は選択式と自由記述式を設けた。回答後のアンケート用紙は後日お礼を兼ねて同園へ調査用紙の回収にうかがった。

#### （7）調査内容

アンケート調査内容は、コンサート内容に関する質問の内、実施した3か所で共通する9項目および属性に関する質問3項目の計12項目を表4に示す。

**表4 アンケート調査内容**

※ 該当の回答欄に、○印を付けてください。よろしくお願いします。

①コンサート時間の長さ	1. ちょうど良かった 2. ( 分ぐらいが良い)
②コンサートの雰囲気	1. 良かった 2. やや良かった 3. どちらでもない 4. やや悪かった 5. 悪かった
③コンサートのプログラム（曲目）	1. 良かった 2. やや良かった 3. どちらでもない 4. やや悪かった 5. 悪かった
④学生の動きや合唱	1. 良かった 2. やや良かった 3. どちらでもない 4. やや悪かった 5. 悪かった
⑤歌いやすさ	1. 良かった 2. やや良かった 3. どちらでもない 4. やや悪かった 5. 悪かった
⑥壁に張った歌詞は役に立った	1. 役に立った 2. やや役に立った 3. どちらでもない 4. やや役に立たなかった 5. 役に立たなかった
⑦壁に張った歌詞の見やすさ	1. 見やすかった 2. やや見やすかった 3. どちらでもない 4. やや見にくかった 5. 見にくかった
⑧コンサートの満足度	1. 満足だった 2. やや満足だった 3. どちらでもない 4. やや不満だった 5. 不満だった

⑨次回の参加	1. 参加すると思う 2. 都合が合えば参加する 3. どちらでもない 4. 参加しないと思う
--------	--

性別	1. 男性 2. 女性
年齢	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代以上
区分	1. 職員 2. 利用者

その他ご意見がございましたら、自由にお書きください

#### 4. 結果と考察

##### (1) 対象者に適したコンサート活動について

コンサート参加者のうち、B病院の保護者と職員から14名の回答を得ることができた。Cデイサービスの職員から28名の回答を得ることができた。D幼保園の保育者から25名の回答を得ることができた。その結果を表5に示し、結果に対する考察を述べる。

表5 アンケート調査結果

基本属性

質問内容	回答	B病院の保護者と 職員の比率(%)	Cデイサービスの 職員の比率(%)	D幼保園の保育者 の比率(%)
①回答者の性別	1. 男性	4.1	10.0	0
	2. 女性	92.9	90.0	100.0
②回答者の年齢層	1. 10代	0	10.0	0
	2. 20代	0	10.0	20.0
	3. 30代	57.1	20.0	20.0
	4. 40代	7.1	30.0	44.0
	5. 50代	35.7	20.0	16.0
	6. 60代	0	10.0	0
	7. 70代以上	0	0	0

コンサート内容

質問内容	回答	B病院の保護者と職員 の比率(%)	Cデイサービスの職員 の比率(%)	D幼保園の保育者の 比率(%)
③コンサート時間の長さ	1. ちょうど良かった	100.0	100.0	100.0
	2. 短かった	0	0	0
	3. 長かった	0	0	0
③コンサートの雰囲気	1. 良かった	85.7	22.2	68.0
	2. やや良かった	14.3	77.8	32.0
	3. どちらでもない	0	0	0
	4. やや悪かった	0	0	0
	5. 悪かった	0	0	0
④コンサートのプログラム (曲目)	1. 良かった	64.3	22.2	68.0
	2. やや良かった	28.6	55.6	28.0
	3. どちらでもない	7.1	22.2	0
	4. やや悪かった	0	0	4.0
	5. 悪かった	0	0	0

⑤学生の動きや合唱	1. 良かった	57.1	11.1	52.0
	2. やや良かった	28.6	44.4	44.0
	3. どちらでもない	7.1	11.1	4.0
	4. やや悪かった	0	33.3	0
	5. 悪かった	0	0	0
⑥歌いやすさ	1. 良かった	50.0	25.0	54.2
	2. やや良かった	35.7	37.5	45.8
	3. どちらでもない	0	12.5	0
	4. やや悪かった	7.1	12.5	0
	5. 悪かった	0	12.5	0
⑦壁に張った歌詞は役に立った	1. 役に立った	50.0	71.4	64.0
	2. やや役に立った	21.4	0	36.0
	3. どちらでもない	21.4	28.6	0
	4. やや役に立たなかった	0	0	0
	5. 役に立たなかった	7.1	0	0
⑧壁に張った歌詞の見やすさ	1. 見やすかった	50.0	57.1	68.0
	2. やや見やすかった	14.3	14.3	32.0
	3. どちらでもない	21.4	0	0
	4. やや見にくかった	0	28.6	0
	5. 見にくかった	1	0	0
⑨コンサートの満足度	1. 満足だった	71.4	28.6	84.0
	2. やや満足だった	21.4	57.1	12.0
	3. どちらでもない	7.1	14.3	4.0
	4. やや不満だった	0	0	0
	5. 不満だった	0	0	0
⑩次回の参加	1. 参加すると思う	78.6	83.3	59.1
	2. 都合が合えば参加する	21.4	16.7	40.9
	3. どちらでもない	0	0	0
	4. 参加しないと思う	0	0	0

#### 基本属性 B病院の保護者と職員

##### ①回答者の性別

男性7.1%、女性92.9%と、女性の回答者が多数であった。

##### ②回答者の年齢層

30代57.1%、40代7.1%、50代35.7%、60代以0%であった。30歳から50歳代までの中高年層が回答者の中心であった。

#### 基本属性 Cデイサービスの職員

##### ① 回答者の性別

男性10.0%、女性90.0%と、女性の回答者が多数であった。

##### ② 回答者の年齢層

10代10.0%、20代10.0%、30代20.0%、40代30.0%、50代20.0%、60代10.0%、70代以上0%であった。40代が一番多く、その他の年齢層はややまんべんなく分布している。

#### 基本属性 D幼稚園の保育者

##### ①回答者の性別

男性0%、女性100.0%と、回答者のすべてが女性であった。

##### ②回答者の年齢層

10代0%、20代20.0%、30代20.0%、40代44.0%、50代16.0%、60代0%、70代以上0%であった。40代が一番多い、その他の年齢層はまんべんなく分布している。

## コンサートの内容

### ③コンサートの時間の長さ

すべての会場で参加したB病院の保護者と職員、Cデイサービスの職員、D幼保園の保育者のすべてにおいて「ちょうど良かった」が100%と非常に良い結果となった。

### ④コンサートの雰囲気

B病院の保護者と職員の回答では、「良かった」85.7%、「やや良かった」14.3%、「どちらでもない」0%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。

Cデイサービスの職員の回答では、「良かった」22.2%、「やや良かった」77.8%、「どちらでもない」0%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。

D幼保園の保育者の回答では、「良かった」68.0%、「やや良かった」32.0%、「どちらでもない」0%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。

すべての参加者におおよそ満足してもらえる雰囲気がつくれた。コンサートの前半に有名なクラシックナンバーを入れ、音楽を傾聴する環境づくりに努めた。これによってコンサートの雰囲気をつくることができたと思われる。CデイサービスとD幼保園では、それぞれの参加者が知っていると思われる日本の曲を4曲メドレーで演奏した。その際、各曲のイメージを膨らませるために、図1に示すように歌詞カード紙芝居にし、演奏の前に学生の朗読によって歌詞を紹介し、その歌詞の情景をイメージしやすくなる雰囲気づくりに工夫を凝らした。

図1 歌詞カード紙芝居



### ⑤コンサートのプログラム（曲目）

B病院の保護者と職員の回答では、「良かった」64.3%、「やや良かった」28.6%、「どちらでもない」7.1%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。92.9%がおおよそ「良かった」であった。

Cデイサービスの職員の回答では、「良かった」22.2%、「やや良かった」55.6%、「どちらでもない」22.2%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。

D幼保園の保育者の回答では、「良かった」68.0%、「やや良かった」28.0%、「どちらでもない」0%、「やや悪かった」4.0%、「悪かった」0%であった。

すべての施設でコンサート中盤の約10分間は単に演奏を聴くだけではなく視聴者参加型のコンサートにした。B病院やCデイサービスでは一緒に手拍子をとったり、歌ったり、飽きを来させない工夫を行った。D幼保園では未就学児が知っていると思われる日本の曲



メドレーにし、後半には体験コーナーを設け、一緒に踊って一緒に楽しめるポピュラーな曲を選んだ。

#### ⑥実践した学生の動きや合唱

B病院の保護者と職員の回答では、「良かった」57.1%、「やや良かった」28.6%、「どちらでもない」7.1%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。学生の動きに関して85.7%の回答者がおおよそ良かった。

Cデイサービスの職員の回答では、「良かった」11.1%、「やや良かった」44.4%、「どちらでもない」11.1%、「やや悪かった」33.3%、「悪かった」0%であった。「どちらでもない」「やや悪かった」合わせて44.4%と約半数が低評価であった。

D幼保園の保育者の回答では、「良かった」52.0%、「やや良かった」44.0%、「どちらでもない」4.0%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。この結果から3回のコンサートを経験して学生の動きが少しずつ良くなって行ったことが、専門職である保育者の評価から改善が読み取れた。

#### ⑦歌いやすさ

B病院の保護者と職員の回答では、「良かった」50.0%、「やや良かった」35.7%、「どちらでもない」0%、「やや悪かった」7.1%、「悪かった」0%であった。歌いやすさに関しては、85.7%の回答者がおおよそ良かったとの回答が得られた。

Cデイサービスの職員の回答では「良かった」25.0%、「やや良かった」37.5%、「どちらでもない」12.5%、「やや悪かった」12.5%、「悪かった」12.5%であった。

D幼保園の保育者の回答では、「良かった」54.2%、「やや良かった」45.8%、「どちらでもない」0%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。この結果からCデイサービスでは、「やや悪かった」「悪かった」合わせて11.5%と1割が低評価となってしまう。

#### ⑧壁に張った歌詞は役に立った

B病院の保護者と職員の回答では、「役に立った」50.0%、「やや役に立った」21.4%、「どちらでもない」21.4%、「やや役に立たなかった」0%、「役に立たなかった」7.1%であった。壁に張った歌詞がおおよそ役に立ったとの回答は71.4%であった。しかし、「どちらでもない」または「役に立たなかった」が28.5%であった。この時は、歌詞を模造紙に印刷して表示した。

Cデイサービスの職員の回答では、「役に立った」71.4%、「やや役に立った」0%、「どちらでもない」28.6%、「やや役に立たなかった」0%、「役に立たなかった」0%であった。この時から、歌詞の表示をプロジェクターで表示する方法に改善した。

D幼保園の保育者の回答では、「役に立った」64.0%、「やや役に立った」36.0%、「どちらでもない」0%、「やや役に立たなかった」0%、「役に立たなかった」0%であった。この時は、会場のスペースが広く歌詞を十分な大きさで表示することができた。

#### ⑨壁に張った歌詞の見やすさ

B病院の保護者と職員の回答では、「見やすかった」7名(50.0%)、「やや見やすかった」2名(14.3%)、「どちらでもない」3名(21.4%)、「やや見にくかった」0名(0%)、「見にくかった」1名(7.1%)であった。歌詞の見やすさに関して、64.3%がおおよそ見やすか



ったとの回答が得られた。しかし、28.5%が「どちらでもない」または「見にくかった」と回答している。歌詞は模造紙に学生が手書きで作成し、曲に関連した挿絵も加えた。文字の大きさは参加者が見やすいように大きい文字で書いた。しかし、歌詞を貼る場所が参加者から離れた場所であったことが見えにくさにつながった要因と考える。

Cデイサービスの職員の回答では、「見やすかった」57.1%、「やや見やすかった」14.3%、「どちらでもない」0%、「やや見にくかった」28.6%、「見にくかった」0%であった。よく見えるように学生手作りの歌詞カードとその画像を大きなスクリーンに映したが、それらを正面に設置したため、角度によっては見えなかった場合も考えられた。

D幼保園の保育者の回答では、「見やすかった」68.0%、「やや見やすかった」32.0%、「どちらでもない」0%、「やや見にくかった」0%、「見にくかった」0%であった。3回のコンサートの中で一番大きな会場のため表示画面の大きさが十分であった。学生手作りの歌詞カードと歌詞がよく見えるようにその画像を大きなスクリーンに映したが、それらを正面に設置したため、角度によっては見えなかった場合も考えられた。

#### ⑩コンサートの満足度

B病院の保護者と職員の回答では、「満足だった」71.4%、「やや満足だった」21.4%、「どちらでもない」7.1%、「やや不満だった」0%、「不満だった」0%であった。満足度に関して92.8%がおおよそその満足が得られたが、「どちらでもない」7.1%の意見があった。

Cデイサービス職員の回答では、「満足だった」28.6%、「やや満足だった」57.1%、「どちらでもない」14.3%、「やや不満だった」0%、「不満だった」0%であった。「満足だった」「やや満足だった」の回答が得られたのは、85.7%といずれもおおよそ満足してもらえたコンサートになったと考える。

D幼保園の保育者の回答では、「満足だった」84.0%、「やや満足だった」12.0%、「どちらでもない」4.0%、「やや不満だった」0%、「不満だった」0%であった。「満足だった」「やや満足だった」の回答が96.0%と内容が改善されているコンサートになったと考える。

#### ⑪次回の参加

B病院の保護者と職員の回答では、「参加すると思う」11名(78.6%)、「都合が合えば参加する」3名(21.4%)、「どちらでもない」0名(0%)、「参加しないと思う」0名(0%)であった。

Cデイサービスの職員の回答では、「参加すると思う」83.3%、「都合が合えば参加する」16.7%、「どちらでもない」0%、「参加しないと思う」0%であった。いずれも約9割の方々から「次回も参加すると思う」との回答が得られた。

D幼保園の保育者の回答では、「参加すると思う」59.1%、「都合が合えば参加する」40.9%、「どちらでもない」0%、「参加しないと思う」0%であった。

今後は現場で参加者のタイミングに合わせることで、この用な教育の取り組みが可能になり、実践活動の学びを積み重ねることができると思われる。

(2) コンサート活動の反省

コンサート終了後、参加学生はコンサートの映像をみながらリフレクションシートをもとに振り返り活動を実施した。リフレクションシートの質問項目は表6に示した。リフレクションシートの振り返りをもとに、学生の実践力および保育者としての資質向上について述べる。

表6 リフレクションシート結果

質問内容	回答	B病院時の 比率(%)	Cデイサービス 時の比率(%)	D幼稚園時 の比率(%)
①選曲や内容の企画	1. 参加した	66.7	66.7	60.0
	2. やや参加した	33.3	33.3	30.0
	3. あまり参加しなかった	0	0	10.0
	4. 参加しなかった	0	0	0
	5. その他	0	0	0
②準備作業や練習	1. 参加した	100	100	80.0
	2. やや参加した	0	0	20.0
	3. あまり参加しなかった	0	0	0
	4. 参加しなかった	0	0	0
	5. その他	0	0	0
③当日のセッティング	1. 参加した	83.3	83.3	68.8
	2. やや参加した	16.7	16.7	31.3
	3. あまり参加しなかった	0	0	0
	4. 参加しなかった	0	0	0
	5. その他	0	0	0
④当日の発表や協力	1. 参加した	100	100	81.3
	2. やや参加した	0	0	18.8
	3. あまり参加しなかった	0	0	0
	4. 参加しなかった	0	0	0
	5. その他	0	0	0
⑤当日の片づけ	1. 参加した	83.3	83.3	81.3
	2. やや参加した	16.7	0	18.8
	3. あまり参加しなかった	0	16.7	0
	4. 参加しなかった	0	0	0
	5. その他	0	0	0

① 選曲や内容の企画

B病院では、「参加した」66.7%、「やや参加した」33.3%の回答が得られた。Cデイサービスでは、「参加した」66.7%、「やや参加した」33.3%の回答が得られた。D幼稚園では、「参加した」60.0%、「やや参加した」30.0%、「あまり参加しなかった」10.0%

の回答が得られた。

おおよその学生が対象者のことを想像して楽しんでもらえる内容をゼミ内で協力して選曲等企画の段階からしっかり参加できている。その一方で、この活動に消極的に変化した学生がいることがわかった。

## ② 準備作業や練習

B病院では、「参加した」と回答した学生は100%であった。Cデイサービスでは、「参加した」と回答した学生は100%であった。D幼保園では、「参加した」80.0%、「やや参加した」20.0%の回答が得られた。

おおよその学生はこれまでの経験に基づき本番に向けどの程度の練習が必要なのか、準備作業や練習を十分に行之、学生自身が考え本番に備え準備した様子が読み取れる。その一方で、この活動に消極的に変化した学生がいることがわかった。

## ③ 当日のセッティング

B病院では、「参加した」と回答した学生は68.8%「やや参加した」31.3%であった。Cデイサービスでは、「参加した」83.3%。「やや参加した」16.7%の回答が得られた。D幼保園では、「参加した」68.8%。「やや参加した」31.3%の回答が得られた。

おおよその学生は当日のセッティングがどうすればいいのか動くことができた。しかし、一部の学生はどうすればいいのかわからず積極的に動けなかったことが見て取れた。さらに、問題点とその改善に対する気づく学生もいた。学生自ら課題を見出し、解決案を考えている様子が見て取れた。

## ④ 当日の発表や協力

B病院では、「参加した」と回答した学生が100%であった。Cデイサービスでは、「参加した」と回答した学生が100%であった。D幼保園では、「参加した」81.3%、「やや参加した」18.8%の回答が得られた。

ほとんどの学生は当日の発表や協力に悔いが残ることはなかったようであった。これは保育の現場に出た時に大いに役立つと考えられる。

## ⑤ 当日の片づけ

B病院では、「参加した」83.3%、「やや参加しなかった」16.7%の回答が得られた。Cデイサービスでは、「参加した」83.3%、「あまり参加しなかった」16.7%の回答が得られた。D幼保園では、「参加した」81.3%、「やや参加した」18.8%の回答が得られた。

Cデイサービスで、「あまり参加しなかった」と回答した16.7%の自由記述には、「施設内を見学していて片付けに参加できなかった」と記述されており、意図的に片付けしなかったのではなく、コンサート終了後に行われた施設見学と重なってしまったためであったことがわかった。そのことがなければ、ほとんどの学生は自主的に片づけをすることができた。積極的な学生は準備も含めて片付けの改善点を考えており、このコンサート活動においてイベントではどう動けば良いのか、学生の成長が認められた。

# 5. まとめ

## (1) 学外コンサートからの学び

学外向けのコンサートプログラムを考えるにあたっては、参加者のバックグラウンドに配慮する必要がある。日本には古くから伝わる伝統文化があるように、歌い継がれている

日本の歌がある。幼児を対象とした歌は歌詞の中に季節を感じさせ、日本の文化習慣が感じられる。つまり、古くから歌い継がれる唱歌や童謡の中から選ばれる。

流行歌を選曲する場合は参加者がよく聞いていたであろう、その時代に流行った曲が思い出として記憶によみがえる曲が望ましい。そして一緒に口ずさむことができる。記憶の中にメロディが存在し、記憶の中に言葉が存在する。その上で演奏の主旋律を聞くことで当時の記憶を呼び覚ます。

日本の懐かしい風景、その時代の文化習慣や暮らしと深い関りがある唱歌や童謡を演奏し、歌詞の内容を幼少期の子どもたちへ伝えていきたいと思う。そのために、学生自身で歌詞の内容を絵で表現し、歌詞カード紙芝居を作成した。歌詞のイメージ理解を紙芝居にする事によって達成できたと思う。この様に、コンサートでアイデアを加えることで学生らしいコンサートを実践することができた。

## (2) 参加学生の実力向上と参加意識の変化

入学直後の学生は、音楽初心者の方が7割程度であり、音楽経験者であれば当然身につけていると思われる読譜に必要な基礎知識の未取得者と楽器経験が少ないと思われる学生が見受けられる。従来、音楽基礎知識の習熟度については、音楽の経験年数に比例すると考えられていた。しかし、入学前に楽器経験者であっても、入学後に練習する習慣がなければ授業の課題をこなすことは容易ではない。

本研究で得られた結果では、入学する前に音楽の経験が少なかったとしてもコンサート活動を通じて上達しようと思うきっかけさえあれば、上達しようとする学生の気づきが芽生えていたと考える。これらの取り組みの結果、学生の資質向上とともに演奏練習を継続するためのモチベーションとなり、練習時間を確保するためのスキマ時間の活用が認められた。

それぞれの施設の参加者がコンサートを楽しめるように、コンサート時間、選曲、曲順に配慮してプログラムの検討を行った。さらに、参加者がコンサートを受け身になって音楽を聴くだけでなく、参加型のコンサートにしたことで参加者が自由に身体全体で音楽を楽しめるように工夫できた。この取り組みにおけるコンサート経験が、今後の保育現場で役立つものと期待する。

## 参考文献

- (1) 相浦雅子・大元千種. 保育における行事に関する調査(1) : 生活発表会について. 日本保育学会大会研究論文集, 42, 350-351.(1989)
- (2) 日高まり子. 「音楽」の授業における観点別評価の試み. 宮崎国際大学教育学部紀要『教育科学論集』. 4. 68-80. (2017)